

文化・芸術



「奥平村の風景」

1925、27年ごろ 油彩、カンバス
60・6センチ×72・7センチ

川口軌外 (1892～1966年)

90歳になった京村さに行くこともありましたが、本作についておた、と話されました。話しくださったことが 川口が初めて渡欧したの1920年。23ありました。

これは自分が7、8歳の時の絵で、じっさいは白黒のしま柄の羽織るタイプの洋服で、当時気に入ってよく着ていたから覚えています。家の庭先には確かにヒマワリがあったが、こうしてポーズをとった記憶はないから、父は写真をもとに描いたのかもしれない、絵のバランスとして、こうした色をつけてたのでしよう。また、休日にはもっと大きな籠を持ってピクニック

〈名画の扉〉

大川美術館企画展から

20年代のパリにおいて川口は、シャガールやレジェら先鋭的な表現に触れ、佐伯祐三ら渡欧中の日本人画家たちとも交友して描いたのかもしれない、絵のバランスとして、こうした色をつけてたのでしよう。また、休日にはもっと大きな籠を持ってピクニック

(小此木)